

# 旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 39

2019年1月発行

秋季企画展

「新田会所、時々鉄道」

旧家でコンサート

伝統民家と伝統楽器の響き

2018 年末行事いろいろ

連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 - (三十三)」



<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

# 展示のご案内

しゅき 酒器、  
 通い徳利(20254100)

しゅきッ、好ゆき?、  
 提げ籠(20254105)

酒器♪、  
 酒瓶(20254101)

酒器♪、  
 盃(20254102) 徳利(20254103)

酒気!?

お酒に関する  
 道具が大集合!

えっ 酒家?

徳利  
 猪口  
 盃  
 銚子  
 燗器  
 …

燗する?

酒燗器(20254104)

八尾市指定文化財  
 安中新田会所跡 旧植田家住宅  
 〒581-0084 大阪府八尾市植田町1-1-25 TEL:072-992-5311 http://www.uedakejutsu.jp/

平成31年(2019) 1月5日(土) - 3月11日(月)  
 \*会期中一部展示替えあり

休館日:火曜日 (開館時間)9:00~17:00(入館は16:30まで)

(入館料)一般250円、高校・大学生120円、  
 中学生以下は無料

●2/11(客・月)ギャラリートーク  
 ①13:30~ ②14:30~ \*①②は同内容・30分程度

## 冬季企画展「昔の暮らしシリーズ:食の道具」

2019年1月5日(土)~3月11日(月)

植田家にのこる「食」の道具から、「酒器」を集めて展示しています。

※休館日はP15をご覧ください

# Contents

- 4 秋季企画展  
新田会所、時々鉄道
- 6 講座「今東光作品で読む八尾市史  
& 八尾の文化」
- 7 市内鉄道まちあるき  
～竜華操車場のいまむかし～
- 8 旧家でコンサート  
伝統民家と伝統楽器の響き
- 10 2018 年末行事いろいろ
- 11 四会所だより(19)-平野屋新田会所-
- 12 なにわの伝統野菜栽培日記 ㊿
- 13 植ちよピ(関西文化の日関連イベント)
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (三十三)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



表紙写真

## 旧家でコンサート (リュートとニッケルハルパ)

第10回目を迎えた「旧家でコンサート」。今回はスウェーデンの伝統楽器ニッケルハルパとリュートによるコンサートを、旧植田家住宅の建物を舞台に開催した。詳細は8・9頁に掲載。



※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。  
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

2018年10月27日(土)→12月24日(月)

平成30年度 秋季企画展

# 新田会所、



「河内鉄道路線図」(明治28年)の展示

# 時々鉄道



関西鉄道複線化用地買収関係資料(明治40年)

まぼろしの河内鉄道をもう一度…



新田開発当初の様子がわかる「摂津・河内国新田・古新田絵図」(宝永5年～)



河内鉄道会社請願書類一式と「鉄道会社創立盟約書」(明治28年)

## 秋季企画展「新田会所、時々鉄道」

2018年10月からの企画展では新田会所と鉄道をテーマに「新田会所、時々鉄道」を開催しました。約5年ぶりの鉄道関連展示となり、今回は現在交流のある三会所(鴻池・加賀屋・平野屋)の協力を得て、新田会所の紹介を中心に行ないました。そのため「時々鉄道」となっています。

新田開発の歴史を見ていくと、現在の鉄道に通じるところが多くあります。八尾市内には、J・R・近鉄・地下鉄など各社の路線と駅が存在しますが、その線路が旧大和川床の新田跡(あるいは近く)を走っていることは意外と知られていません。もちろん全ての路線がそうではありませんが、とりわけ安中新田の土地の一部には現在のJ・R大和路線が通り、明治四〇年の関西鉄道の複線化にともない、ふたたび新田の土地が買収されたことが旧植田家住宅にのこる古文書等に記録されています。また、前回の鉄道展でも紹介した「河内鉄道」関連資料も今回再び展示し、旧大和川の新田跡を鉄道に利用しようとしていたことや、当時のくらしの様子についても改めて注目しました。

同展のトピックは、今回、三会所より特別に



# 大阪府下の四会所を紹介！



「(加賀屋新田) 新田開発仕様帳」(文政12年)

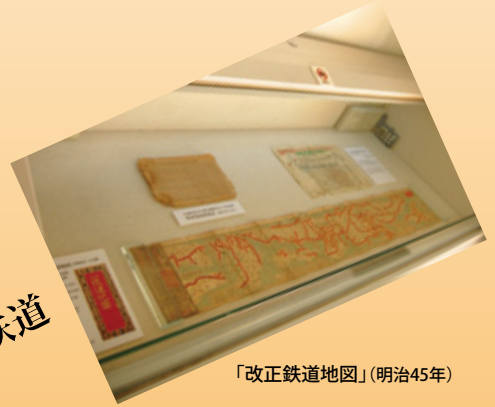


「築留堤敷之内建物絵図」(宝暦10年)



「大坂西京間鉄道線平面概略図」  
(明治10年)

## 時々鉄道



「改正鉄道地図」(明治45年)

### 四会所交流・特別資料 「ゆかりの一品」展示



鴻池新田会所ゆかりの鬼瓦



加賀屋新田会所ゆかりの扁額



平野屋新田会所ゆかりの石柱



関連講演会の様子

11月25日(日)は、企画展関連講演会「新田会所の建築」を開催。講師は植松清志先生。四会所の歴史や建築的特徴の比較などを通して、会所建築の魅力を伝えていただきました。

(旧植田家住宅学芸員 安藤亮)

お借りした「ゆかりの一品」の展示です。前号の「植田家だより」でもお伝えしていたように、今回は展示内容をあえて伏せ、シークレットで広報を行ないましたが、そのシルエットだけで何が展示されるのか分かった方もおられたのではないのでしょうか。建物や遺構が今もこるこれらの会所跡をこれから見学される方や既に訪れたことのある方にも、意外な「一品」であったと思います。なお展示の解説の一部には各会所の最寄り駅も紹介しています。

さて、鉄道展でありながら鉄道の要素が薄めの本展では、古文書の中に時々みられる鉄道関連資料も一部紹介しました。開業当初の八尾駅の時刻表をはじめ、大坂(阪)・西京(京都)駅間の開通当時の路線図、さらには明治三七年発行の全国鉄道地図(明治45年改正版)など、当時の生活文化が垣間見えます。鉄道や新田関連の資料は未調査のものも含めてまだあります。また時々公開できればと思います。

「六月七日の朝、  
眠いのを起されて八尾市の  
新しい円形公会堂に行った。  
そこで市政十周年の祝典に  
列した。」

〔八尾市〕昭和33(一九五八)年8月10日  
角川書店発行『盲目説法』所収



天台院移住直後の頃  
(天台院門前)

# 今東光作品で読む八尾市史&八尾の文化

## 講座“八尾の文化”

今年度第2回目の講座は、  
通年のテーマである「八尾の  
文化」にちなみ、伊東健氏(今  
東光を語る会)を講師に迎えて  
「今東光作品で読む八尾市史&八尾の  
文化」を開催した。講座では、おなじみ  
伊東氏のヴォリュームたっぷり資料  
も配布され、それらを基に話が進めら  
れた。

今年度は八尾市の市制70周年の年で  
あり、これを記念した本講座では、まず  
始めに昭和33年(一九五八)の市制10周年  
の記念行事に参加した今東光の回想か  
ら始まった。この中には、当時の八尾市  
の様子や東光の想いが語られている。  
現在八尾市では、新たな『市史』を刊行  
する市史編纂事



熱心に聞き入る大勢の参加者

業が進められて  
いるが(現在まで  
にミニ版を含め  
3冊を刊行)、今  
東光の作品は、  
まさにこの市



史として読み取ることができ  
ると伊東氏は言う。著名な『小説  
河内風土記』全六巻を例に挙げ、  
「鬮鶏」をはじめ63の短編小説を  
全て分析し、その中で描かれた  
市史について紹介をされた。小説  
とはいえ、今東光の八尾での実生活や  
歴史研究(趣味?)の成果、あるいは小説  
家ならではの観察眼をもって描写された  
作品には、まさにリアルな市史がある  
といえる。これ以外にも数ある他の作品  
を、実際の「市史」と重ね合わせて読む  
ことで古墳時代から近代まで各時代毎  
の市史を東光は描いて(網羅して)いる  
ことがわかり、実に面白い事実である。  
最後には、映像化された東光作品  
〔悪名シリーズ〕にも言及し、興味の  
尽きない一時間半の講座となった。

(学芸員 安藤亮)



講演中の伊東健氏

「講座」+「まちあるき」企画

2018年 9:00~12:00

11月17日(土)

# 市内鉄道まちあるき

## ～竜華操車場のいまむかし～



講座の様子(旧植田家住宅)



現在の八尾駅(南駅前広場)



鉄道遺産その1  
跨線橋の鉄柱(JR八尾駅)



煉瓦造の壁(JR八尾駅前)



高層ビルが建ち並ぶ風景(竜華操車場跡)



旧大和川堤跡の段差(JR八尾駅付近)



鉄道遺産その2  
車輪(JR久宝寺駅)



せせらぎの道  
(久宝寺駅付近)

### 関西本線と久宝寺駅の 魅力再発見

二〇一八年十一月七日(土)  
感想・旧植田家住宅スタッフ  
市内鉄道まちあるき  
～竜華操車場のいまむかし～

八尾市内の鉄道と旧大和川の歴史を結ぶこの企画では、昨年は亀の瀬トンネルの見学を行ないましたが、今年は秋季企画展と一部連動し、「竜華操車場」(久宝寺)のまちあるきと講座を行ないました。講師は知る人ぞ知る鉄道ファンの植田素行さんです。

まず二時間の講座では、基礎知識として関西本線と久宝寺駅について写真や資料を通して学びました。また今回は八尾市が制作したという竜華操車場の最期を記録した貴重な映像も見せていただき、まちあるきへの期待が高まります。

その後、二時間のまちあるきでは、竜華操車場跡を辿り、その規模の大きさやまちの移り変わりの様子を体感することができました。参加者の中にはかつて竜華操車場に居られた方もあり、当時の様子がにわかによみがえる想いでした。二〇一九年はJR(旧国鉄)八尾駅開業一三〇周年の記念年です。次回「市内鉄道まちあるき」は現在、企画準備中です。



# 旧家でコンサート

## - 伝統民家と伝統楽器の響き -

2018.11/11(日)

開演18:30～(18:00開場)

古民家に美しく響く  
多弦楽器の調べ



伝統楽器  
「ニッケルハルパ」



フィドル奏者・大森ヒデノリ／ニッケルハルパ



楽器解説などトークも多彩なコンサート



古楽器奏者・小出智子／リュート



旧家でコンサート

## 伝統民家と伝統楽器の響き

スウェーデンの伝承曲から軽やかにコンサートがスタートした。江戸時代の伝統民家で今回演奏されたのはスウェーデンの伝統楽器ニツケルハルパ（鍵盤ハープの意）とリュート。どちらも五百年以上の歴史と伝統があり、また多弦楽器でもある。演奏者は、八尾市出身で今年11月3日に八尾市文化新人賞を受賞したフィドル奏者の大森ヒデノリと、守口市出身で古楽器奏者の小出智子の両氏。地域、時代、特徴が非常に近い楽器とあり、ぴったり息のあった演奏で、美しい古楽器の音色が建物全体に響き渡った。

今回はスウェーデンの伝承曲の他、大森氏作曲のオリジナル曲が多数演奏され、いずれも楽器の個性と伝統の深さを感じさせる。次の《エドヴァルドのラインレンデル》は、ヨーロッパのフォークダンスをモチーフにした大森氏が作曲した2拍子の軽快な曲。続く《姉妹のボルスカ》（現地で有名な伝承曲の一部。ゆったりとした3拍子の曲）は、切な気な旋律にリュートの柔軟な響き（コード）が織成す、どこか懐かしい響きを想起する。とても



八尾の伝承歌（機織の歌）を披露



オリジナル楽器「河内五弦琴」



スウェーデンの伝統音楽やオリジナル曲を演奏

優雅に演奏する小出氏だが、リュートにとつてはかなりの難曲だという。

両氏の出身地トークも織り交ぜながら、次の《白樺のバスケット》（大切な人への贈り物に使うスウェーデンの民芸品に着想を得たワルツ）と《Spinning Keys》（フランスのバリの町のイメージ。アコーディオンで演奏されるミュゼットをイメージしたワルツ）が演奏された。スウィングするリュートはなかなか貴重だ。

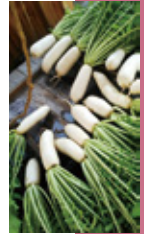
後半は、《過ぎ去りし日々を越えて変わらぬ君へ》の演奏に続き、八尾の伝承歌《機織ひめ》をオリジナル楽器「河内五弦琴」（高安山の木を使用）で演奏。素朴な弦の音色と会場全員の歌声が何とも言えない心地良さを作り上げた。続いて《五月のアンジェリカ》（北欧の花の名前）と《双蛇の道》の2曲が演奏され、再びスウィングするリュートにスタイリッシュなニツケルハルパが交ざり合った。

ラストは大森氏の八尾のフィドル教室10周年の記念に作られたという《風の祝祭日》をもつて、ゆったりとした空気に包まれながらコンサートは終わりを迎えた。まさに伝統を今に伝え、文化の重要性和素晴らしさを改めて実感させられるコンサートとなった。

（学芸員 安藤亮）

## 11/30「旧家で食事会」

年に一度の旧植田家住宅の目玉企画のひとつ「旧家で食事会」を今年も年末に近い11月末に開催しました。当初は夏に開催することもありましたが、現在では秋から冬のなわの伝統野菜が愉しめる季節の実施となっています。



いつもの田辺大根や天王寺蕪、そして難波葱

などの伝統野菜が、今回は「懐石料理 佑和」さん（八尾市山城町）のご協力によって、見事な松花堂弁当となり、かまどで炊いたご飯とともに参加者のお腹も心もまんぷくにしました。もちろん食器は旧植田家住宅所蔵のものを一部使用していますが、今回は特別に佑和さん所有の特別な食器も使用していただき、豪華な饗宴となりました。来年も楽しみにしているとの声もあり、早くも気分は来年の年末モードに。



## 12/8「こどもガイド 体験講座(冬)」

今年度の夏に予定をしていた「こどもガイド 体験講座(夏)」は、連日の猛暑の影響からか参加者がなく不開講となりましたが、今度は冬の寒さを心配しつつ、3名の参加者があり、無事に開講することができました。



植田家住宅のガイド体験と季節に応じた昔のくらし体験を行なう本講座では、こどもたちに冬の建物の見学と年末の「障子の貼り替え」を体験してもらいました。障子が身近なものではなく、かつてきている現代ですが、きれいに仕上げたいという気持ちと出来上がった時の喜びは今も昔も変わらず、こどもたちは「もっとやりたい」とまだまだ物足りない様子でした。これで気持ちよく新年が迎えられます。



## 12/22「おもちつき大会」

さて、あつという間に年末を迎え、恒例の「おもちつき大会」を今年も開催しました。毎年同じようにみえますが、毎回違った状況の中で行なうため、年々準備が忙しくなっています（本来であれば楽になっていくはずが...）。ところがその分、参加者や協力者が増えていき、喜びが何倍にもなっていくように感じます。



今のくらしを考えると、おもちはお店で買えばそれで食べることはできますが、大勢の人と作って食べることはこの時にしかできません。もちろん一人が好むという人もいるかと思いますが、めったにない機会をぜひ来年も植田家住宅で体験してほしいと思います。おもちのつき手、返し手、丸め手、食べ手、といういろいろな手が必要な行事です。



# 四会所だより (19)

## 「平野屋新田会所跡の周辺遺産」



平野屋新田会所跡から南に行つた恩智川沿いの窪地に、石組みがあります。側を通つてもほとんどの人は気づかないでしょう。本当の名前も過去も忘れかけられてしまっているようです。

ところが、近年この石組みの過去が分かってきました。

大東市の教育委員会が最近刊行した「平野屋会所文書」から、江戸時代の呼び名は「満島樋」で、大変重要な働きをしていた樋門であったことがわかりました。三百年前の新田開発当初は、深野池跡にできた深野北と深野(中)、深野南の三新田に水を送る大切な役目を持つ「三新田立会用水樋」でした。明治になつてからも、この樋から深野南新田が使う水の半分を取り入れていました。

しかし、戦後の高度成長の波が押し寄せると、恩智川の水質悪化で昭和三十年代

はじめに、この樋からの用水の取り入れが中止されました。こうして「満島樋」は、二百五十年におよぶ米作りの大役を終えると「弘化五申年」の銘を持つ「南新田公民館前の樋門」と名前を変え、ひっそりと石組みだけを残すことになったのです。その後も撤去の話が持ちあがり、ところがそのとき、地区の人々が「元々の所に樋門の石組みそのものがあつてこそ新田の歴史を伝えることができる」と、そのまま残すことにしたのです。



満島樋(みつしまひ)

現在の樋門は、弘化五年に改修され石造りになったとされています。



平野屋新田会市民サポーター会議マーク

現在私たちサポーター会議は新田周辺の水路や樋門などを調べる活動を行っています。この調査活動を通して「会所文書」が市民の目に触れるようになったことの大きさと樋門に対する地域の人々の思いのもつ大切さを実感しました。これらの努力によって樋門の過去がよみがえり、新田の歴史がより具体的になることを知りました。

現在、私たちは水路や樋門の資料作りを進めています。大東に来られたとき手に取っていただき「水路や樋門たちの人生」を知っていただけたら幸いです。

(平野屋新田会市民サポーター会議 水永八十生)



平野屋新田会所周辺に残る水路と樋門

ふたたびの…

# でっかい de 賞



収穫(イメージ)



しっかりと洗顔



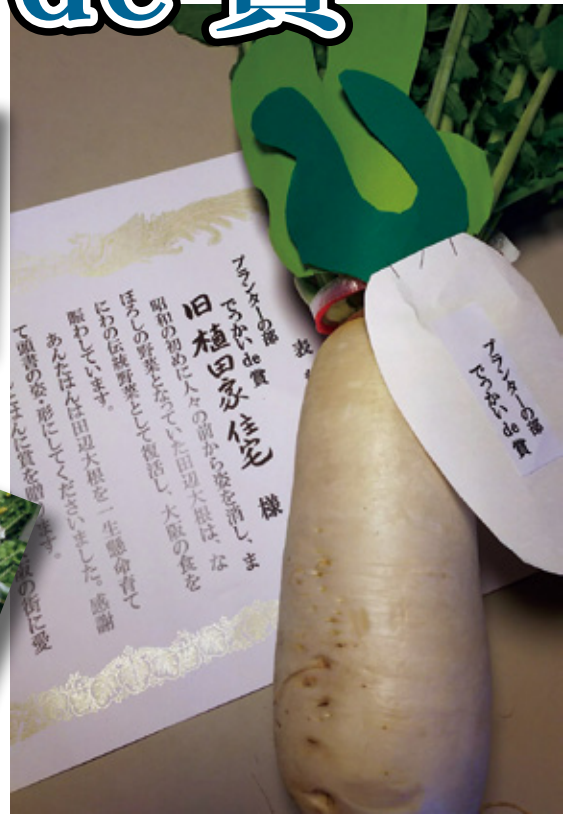
メイクもバッチリ、準備万端。



2度目の「かわいいde賞」を受賞!



審査中



## 【再びの…】

近そうで遠い「これぞ田辺大根de賞」

(最高賞)。この年末、いつもの田辺大根フェスティバルでまたまた頂いてしまった「でっかいde賞」。前年と同じ…そして5枚目の「でっかい」表彰状。その美貌から今回こそは「とったどー」と思った(と)るか毎年言っている私。あえなく撃沈。

以前2度勝ち取った「これぞ」から、すっきりごぶさた。たくさんのお品の中から選んでもらって頂いた賞なので、おなじみの「でっかい」ももちろん充分に有り難い。有り難いのだが、でもサラッと本音を言わせてもらえれば、ここらで一発、ギヴ・ミー、

「ドツカ〜ン!!」

(植田家だより27号参照)

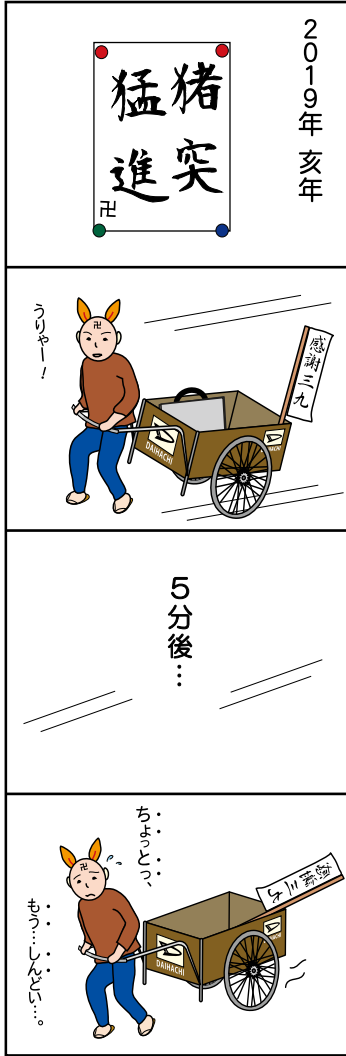
はあく、先は長し。

## 【いちごも再びの…】

畑メンバーもやりました!!何とこちらも同じ子が前年と同じく「かわいいde賞」を受賞。本人はもとよりバーバ(祖母)、大喜び♪またまたよかったね、Kちゃん、そしてバーバ(笑)

# マンジーくん

安富士 暁



「植田家住宅のちよっとしたトビックス」

## 植ちよピ。(ックス)

### ◆ 関西文化の日関連イベント

・「河内の古民家めぐりスタンプラリー」

2018年10月13日(土)〜11月30日(金)

前号でも紹介した、河内にのこる16の古民家を巡るスタンプラリーが、今年も無事に終了した。同イベントは11月の「関西文化の日(関西広域連合ほか主催)」を記念して毎年行なっているもので、初の試みとなった古民家ツアーの参加者も含めて、多くの人が各地の古民家を訪れた。なお、期間中は他にもイベントが目白押しだった。



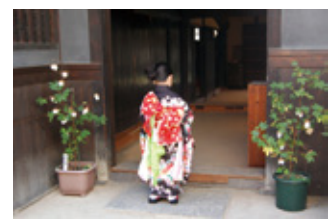
「関西文化の日」関連イベント告知

### ・「旧家で記念撮影〜七五三〜」

2018年11月3日(祝)〜11月25日(日)

三・五・七才を対象に、旧植田家住宅の建物や庭で、着物を着たまま自由に記念撮影ができる企画を実施。近隣の渋川神社へのお参りの帰りに立ち寄る参加者が多く訪れ、スタッフに撮影を希望する家族連れも数組あった。「旧家で記念撮影」は、七五三以外の記念日に

も、様々な撮影の機会を今後も提供する。



主屋玄関口にて記念撮影

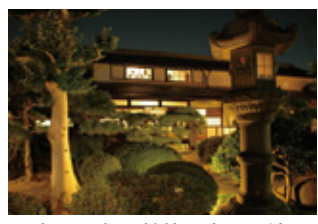


庭を背景に記念撮影

### ・「植松灯籠の日(夜間開館)」

2018年11月17日(土)

11月17日・18日に実施した「関西文化の日」(無料入館日)の初日、いつもの「植松灯籠の日(夜間開館)」を開催し、植松緑の常夜燈のPRを兼ねて全10基の燈籠に灯りを灯した。建物の窓での「影絵」の投影のほか、事前にスタッフや子どもたちと作った「簡単ミニ燈籠」の展示も今回は行ない、会場は幻想的な雰囲気にも包まれた。



灯りの灯る燈籠と窓の影絵



簡単ミニ燈籠の展示

## 落穂拾い

## ― 今東光の董風 ― (三十三)

文・伊東健

昨年末にノーベル医学生理学賞を受賞した本庶佑・京都大学特別教授が、羽織袴姿の和装で授賞式に臨まれたことについて、一九六八年にノーベル文学賞を受賞した川端康成以来のことだと話題になりました。

川端康成はこの時の授賞式に際して、先に受賞していた文化勲章を胸にかけて臨むなど、日本人初の文学賞ということを強く意識していたようです。

そんな川端が、約半年前には今東光の参議院議員選挙事務局長を務めていたというのは、ぐっと身近に感じるエピソードではないでしょうか。

東光は川端の受賞後に全国各地で開催された川端康成展の図録に、川端作品の芸術性について以下のように記しています。

(前略) 川端の描いた幻影は世にも妙なる人間像となつて人々を魅了せずには措かない。その点ではダンテにおけるペアトリイチエと一般、芸術家の写象だけが

実は本当の現実なのだ。川端はシャガールが好きだ。その他にも彼は諸多の画家を好きだが、シャガールの先駆者としての川端の作品は文学におけるシュールリアリズムを既に完成していたと言つて好い。後年、彼の傑作に数えられる「眠れる美女」という作品を見れば僕の言わんと欲することが解るだろう。

そついつ川端の並ならぬ情熱は若き大学生時代に既に發揮されていた。僕は彼に競争を強いられて「カラマーゾフの兄弟」や「戦争と平和」などを読まれたが、これらの十九世紀の膨大な作品は容易に一気呵成に読破し得るものではない。彼はそれを何日で読み通せるかと挑んで来、このようにしてバルザックも紫式部も怠け者の僕等に読ませて鞭撻したのである。この良友が

なかつたら僕など書齋でおとなく本を読んだりしていなかつたらう。(後略)

(川端康成展「所収」川端康成の青年像より)

昭和四十四(一九六九年)四月二十七日毎日新聞社発行

ペアトリイチエという永遠の女性にシャガールの前衛性を川端の作品表現に重ねる東光ならではの川端評ですが、二〇一九年は川端のノーベル文学賞受賞から五十年が経過するということで、その受賞理由や選考過程等が公開されるそうです。日本の長く豊かな文学的土壌が世界に認められた象徴として、川端康成はこれからも輝き続けるでしょうし、そういう川端を生涯の友として敬して接し続けた今東光の眼力も尋常ならざるものを感じずにはおれません。



【2019年2月～4月】

# 旧植田家住宅のご案内

## 今後の展示・企画

毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5組限定)」  
 // 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催!

### 展示

#### 2019年

◎1月5日(土)～3月11日(月)

企画展「昔のくらしシリーズ:食の道具」

◇2/11(祝)ギャラリートーク(学芸員の立ち話)  
 ①13:30～②14:30～各20分程・同内容

◎3月15日(金)～5月6日(月)

通常展「大和川付替えと植田家の収蔵品」

・3/15(金)～4/22(月) 資料編  
 ・4/24(水)～5/6(月) 開館10周年記念予告編

展示、イベント等のお知らせは  
 ホームページもご覧ください  
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>



### 企画

(詳しくはお問い合わせください)

- 2月**
- 9日(土) 旧家で芸能・伝統文化～落語の会～
  - 18日(月)～3月17日(日) 旧家で記念撮影～ひな祭り～
  - 23日(土) 連続体験講座「手習い所～壺～」
- 3月**
- 17日(日) 講座「八尾の生活文化について」(講師:市川秀之氏)
  - 23日(土) 連続体験講座「手習い所～式～」
- 4月** 未定



## 休館日カレンダー

■ = 休館日

■ はイベント開催日

### 2 February

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

### 3 March

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

### 4 April

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

●開館時間:午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休館日:火曜日・祝日の翌日・年末年始  
 (詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入館料:一般250円(団体20人以上で120円)  
 高校・大学生120円(団体60円)

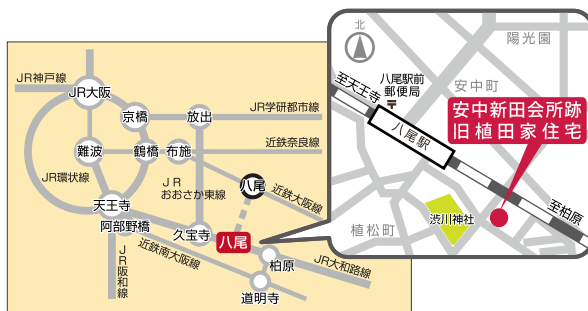
※中学生以下、身体障がい者手帳等の所持者および介助者は無料

●お問い合わせ・見学のご相談 ※施設案内(無料)、講座室利用(有料)など。  
 〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX:072-992-5311

E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。



- ◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分
- ◇近鉄大和線「近鉄八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行  
 JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分

# 本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。  
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、  
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう  
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。  
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、  
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、  
地域経済を活性化させたいと思っています。

